白州だより

ソンタク 忖度ナシ

早春対談「わたしたちはこんなことを考えている農場です」

白州郷牧場
代　表
椎名 盛男

×

白州郷牧場
加工所
見田 由布子

聞き手　井上 忠彦

4
2018年4月
二十四節気
「穀雨」

椎名　内田樹さん❶が「崩壊した家族共同体」っていってるのね。あれ、いつ家族は崩壊したんだろう？って思っていってるんだけど、そうした家族共同体の中で、子供たちの未来はどうなっていくんだろう？これを今回のテーマにしない？

見田　なんだか身につまされるテーマだね。社会的に問題になっているのは、シングルマザーと子供の貧困。社会現象化している。

椎名　子供の貧困って家族共同体がなくなってきたからじゃないかって気がするけど、どうかな。なんで離婚するんだろう？

見田　実態を知らないからわからないけど、六人に一人が相対的貧困❷になっているとは聞いている。高い割合ですね。

「人が持っているものを自分が持っていない。そして、それをとても欲しいと思ってしまう。」こういう気持ちをなんていうの？「欲望が満たされない状態？」資本主義っていうのはそういう人間の気持ちで成り立っているんだって。貧しさに駆り立てられるのが資本主義の原動力。

シングルマザーの貧困の場合、年収でざっと160万から200万円くらいらしいけど、わたしが白州で孫と二人で暮らしてる感じからいうと、月10万くらいでも二人で生きていけるのね。都市部だと子供を含めて世帯年収160万じゃ冷蔵庫に食べるものがなくて空っぽだって、何かの記事に書いてあったけど、ここ白州だと月10万でも食べ物に困ることはない。

でね、離婚したシングルマザーは、食べ物が買えない、とかいいながら、その代わりに携帯やスマホ代とかにはすごくお金を使うでしょ？あれはなんなのかな？若い人たちは、何にお金を使っているんだろうって思う。

井上　食べ物がない貧困より、コミュニケーションの貧困（携帯電話やSNS❸で繋がっていない不安）の方が怖いということなんですかね。

椎名　家族って例えばパパとママがいて子供が二人。この日本ではそういうのが基本だったでしょう？そもそも家制度（イエ）❹っていうのは戦後の憲法と対立していたものだったわけでしょう。

見田　家制度は個人の自立を束縛するものとして戦後認識されて来た。でも人々の頭の中では「家」ってものは常にあったんだよ。で、私たちの世代、つまり団塊の世代なんかだと家制度、封建制、父権制っていうのは打倒すべき存在としてあったでしょう？自由を阻害するものとして。フェミニズムだって男性優位社会を打倒すべきものとしてあった。

椎名　完全に戦後憲法は日本に浸透して、家制度の破壊という目的を成就したのかな、って。

見田　あとは地域差もあると思う。西の方が、確固たる「家」があるように感じる。知り合いの大阪の人が、「今日は誰々の命日、誰々の月命日」とか、日常的によくいうのよ。「あんた、死んだ人と生きてるんだねー」っていったけど、もちろん悪い意味じゃなくて。東と西とで家の壊れ方って違うのかな。ただ家族間の変な事件が起こるのは西が多い気がする。日本は地理的に東西南北に長いし、都市と地方の対比の他に、地域ごとの違いというのもあるかな。

椎名　家制度って拡張性があるというか……

見田　……連綿と続く。でも今の若いひとだって親に反抗するもんね。みかけだけ、その場だけなのかも知れないけれど。どれだけ覚悟と根性を持って反抗してるのかは知らないけど。

井上　若いひとも、血縁ではないけれど「疑似家族」みたいなものを求めてはいます。SNSもそうだし。会社だって昔は疑似家族でした。

見田　運動会までやってたもんねえ。

椎名　社員旅行ってあったよね。戦後憲法のせいかわからないけど今は家族や会社などの共同体が壊れて、みんなが個人に分解された。それがあんまりいいことだとは思えないんだけどね。

見田　個人主義が浸透したことで、いままで家族や家制度が担ってきた「セイフティネット❺」みたいなものを、別の形でつくれるのか？ってことが心配だよね。つくれなかったら大変なことになると思う。

「キララの学校」なんかに来る若い人たちも、あるいはそういう疑似家族を求めているかもしれない。そういう若い人たちの見守り方をどういう風にしたらいいのかよくわからないのだけど。

わたしが椎名さんのやっていた「葦立ち塾（あしだ）❻」に関わったのは「あ、ここでなら子育てができるな」って思ったんだよね。それはとても大きなことであってさ。子を育てる親にとっては。

椎名　「葦立ち塾」では、地方からでてきた労働者階級、いわゆるプロレタリアートの子弟を預かるっていう方針は最初からあったよ。

見田　自分自身がそうだからでしょ。

椎名　田舎には就職する手段がなかったから、高度成長期の集団就職❼みたいなことも起こった。逆に大量の集団就職で親が子供に責任を取らなくてよくなった、ともいえる。

見田　それで、その労働力や稼いだ給料を東京だけ、都市部だけがどんどん吸い上げていったわけでしょ。今も構造は昔から変わっていないよね。奇しくも「また東京オリンピックやります」とかいっているし。戦争で兵士として男を奪い取って、復員で帰ってきたら今度は都市に吸い尽くす。

❶内田樹（うちだたつる）―哲学研究者、思想家。神戸女学院大学名誉教授。『下流志向』など著書多数。
❷相対的貧困率―世帯全員の可処分所得などをもとに計算した、貧困線に満たない人の割合。子どもの貧困率とは、18歳未満で貧困線に届かない人の割合。2017年の貧困線は122万円。日本のひとり親世帯の相対的貧困率は世界で最も高い。フルタイムでの就業が困難、給与の男女差が大きいなどが理由とされている。
❸SNS―ソーシャル・ネットワーキング・サービス。例えばFacebookやLINE、Twitterなどのインターネットサービス。
❹家制度―明治31年に制定された民法で規定の日本の家族制度。戦後、日本国憲法の制定とともに廃止された。江戸時代の武士階級の家父長制的な家族制度が基（もと）になっている。家制度が個人の自立を妨げ、近代的自我の発展や日本社会全体の近代化を阻害している、とされた。
❺セイフティネット―網の目のように救済策を張り、社会全体に対して安全や安心を提供するための仕組み。社会保障の一種。
❻葦立ち塾（あしだ）―1976年に現白州郷牧場代表の椎名盛男氏が東京都足立区に開校した塾。「キララの学校」の前身。
❼集団就職―主に、日本の高度経済成長期に盛んに行われた、農村から都市部への大規模な就職運動のこと。
❽互酬性（ごしゅうせい）―ものの相互のやりとり、また、それにもとづく制度のこと。義務としての贈与関係や相互扶助関係。

されて。子供だけじゃなくて老人の荒廃もすごいね。

「78会」（78年生まれの人たちの会）の人がいってたけど、東京から地方に行った人たちは自分の周りで多い、って。なんか東京は息苦しいんだって。「だから白州は大事なんだ」って文脈でそういっているわけだけど。

井上　競争社会に疲れた。学校でも会社でもどこにいっても比較されるし、SNSでの、何を食べたとか楽しい体験をしたとか幸福自慢競争みたいなのに疲れてしまった……。

椎名　でも、そういうことをいう人たちってのは少数派なのかね。東京の放置された空き家、廃屋ってものすごい数でしょ。なのに、新しいマンションをたくさん建ててそれを何十年ものローン組んで購入しているよね。

母親が食事をつくるっていう食卓共同体だけは家族としての拡張性が残っていたんだよね。いまは男が家事を分担するのは当たり前でしょ。いつから女が食事を作らなくなったの？

見田　「雇用機会均等法」ができたくらいから？名目だけでも女性が管理職になりはじめたから。あるいは女性自身の上昇志向とか。いっとき専業主婦が恥ずかしいものだったけど、でも今は専業主婦になりたいって人が逆に増えてるんだって。

椎名　特権階級にみえるからね。男だけじゃ資本からの搾取（さくしゅ）が足りないってことで、女も搾取の対象になったのかな。

見田　わたしは、フィリピンにしろタイにしろ、そこで働いてる人たちを見てても全然つらそうに見えないのよ。

『働き方改革』とかいろいろいってるけど『どうして労働がつらいのか』とか、そういうことを考え直した方がいいんじゃないか」っていう新聞のコラムを読んで「なるほどな、なんで日本人ってこんな働くのを苦痛に感じるんだろう？」って思ったの。

椎名　日本にマルクス主義が入ってから変わったのかな。

見田　「楽しい職場つくり」って大事よね。

たとえば、わたしは昔、生協運動をやっていましたけれど、理事などもお金のためにやっていたんじゃないの。生協役職も今は普通に職場になっているでしょ。初期はみんな、お金が欲しくてやっていたわけじゃないけど、いつか誰かがいったんだと思うよ。「これは労働でしょ。何か対価をもらわないとやっていられないよ」って。

白州でいったらセンギ（用水路）の維持だとか土手の草刈りとか必要なわけだよ。いくら人口が減っても共同体の維持のために必要な労働がある。そういうのは無償でも参加が必要な労働。

地方だと人と人との関係性がまだ生きていると思う。主に労働を媒介してかな。仕事を手伝ってあげたらお返しに食べ物をもらったり、そういう助け合いというか、ある種の物々交換、互酬性（ごしゅうせい）❽みたいな関係がある。それは「楽しい労働」になる。でも「楽しい労働をする！」って強迫観念的になるとまたつらくなるんだけど。

椎名　都市部のひとの米作りとか田舎体験が長く続かなかったりするのは、通う手間がかかるからで、労働だとは思っていない。

井上　ところで、都市側の過剰な思い込みってありますよね。「田舎の人は純朴で、せっせと野菜をつくって、食べる人に喜んでもらうのが何よりの幸福――」とか。「おいしい空気と、川のせせらぎと、純朴な人々」みたいな幻想。

見田　生協みたいな流通業界もそういった演出をして農産物の宣伝をするでしょ。商売の方便として。で、生産者も無意識に「田舎を演じる」。

井上　都市からみた「わかりやすい田舎」ですね。都市に迎合するだけの「地方」。古臭い近代主義から一歩も出ていない。

見田　それでね、そういう都会の人たちに「わたしたち白州郷牧場はそんなに格好良くありませんよ」って言葉にするとね。「お前はどうしてそういうことをいってぶち壊すのか！」って（笑）。「この人非人（ひとでなし）が！」みたいな目で見られる気がするの（笑）。わたしがひねくれているのかなぁ。

椎名　崩壊した家族共同体と子供の貧困は関係がある？

見田　フードバンクとか子ども食堂❾みたいな取り組みもあるでしょ。余り物を集めて貧しい子供たちに食べさせているのじゃなきゃいいけどね。

昔から格差はあったけど、今は再び格差が固定されてしまっている。階級化して、階層の入れ替えが極端に難しくなった「這（は）い上がれない社会」。例えば離婚してシングルマザーになって、今までの階層から外れて貧しくなっても、傍（はた）からは「それはあんたが馬鹿だからだよ」って感じじゃない？「自己責任」とかいっちゃって。まぁ半分ぐらいほんとにそうなのかもしれないけれど（笑）

椎名　なんでもみんな商品になったのが大きいのかもね、労働力から何からみんな商品になって値段がついた。家族の価値も何もかもが、価格に換算されて。商品化して価格をつけないと資本主義内の尺度として扱えないから。

見田　日本って、なんか全部数値化しないと気が済まないみたいなところがない？カウントできないものは存在しないもので、値段をつけられないようなものには価値がない、と。そういえば、竹中平蔵氏❿はもともとはマルクス主義者だったらしい。それで人材派遣の会社をやっている。「資本論をよく読み込んでいる」って誰かが褒めていた。

見田　森友問題なんかみても自民党も馬鹿だけど野党も馬鹿だよね。ほんとに馬鹿って多様だよ（笑）世界も日本も、絶対、独裁国化、全体主義化してる。森友問題とか自衛隊の日報問題とか政府に対する不信っていっぱい出てきてるじゃない。もう税金を払いたくないって思うのよね。みんなほんとに税金を払わなくなったらどうするんだろう、心配しちゃうよ。それで「ああ、これがわたしの愛国心なんだな」って思ったの（笑）

養老孟司さん⓫が書いてたけど、「選挙に関われるのは市長選くらいまでだ」って。国政選挙とか複雑すぎてわからないから関われないって。それで思ったのは、そんなになってしまった選挙制度っていったいなんなの？ってことよ。例えば山梨県に住んでいる人には、山口県の安倍晋三や福岡県の麻生太郎の選挙には絶対関われないでしょ？誰が選んだのかはっきりした方がいいねって思うのだけど。比例代表で復活当選したりするし。（文部科学省の前事務次官だった前川喜平氏の授業について、名古屋市教育委員会に圧力のような問い合わせをかけさせた）赤池誠章って山梨なんだって。困ってしまうよね。

椎名　これから家族ってどうなっていくんだろう？

見田　世間体とか、社会的な圧力のもとに家族のふりをしなきゃならないときもあるしね。

それから人と暮らすのが嫌な人、人と暮らせない人も増えてきているでしょ。一緒に暮らすには、人間じゃなくてペットがいればいい、それで次の未来にはAIロボットが話しをして相手してくれればいい、って風になるでしょ。

井上　あ―、家族は人間で、ペットじゃないから鬱陶（うっとう）しいんですね。

見田　そう、たぶんね。家族は自己主張するから。その自己主張の仕方が多様で複雑なんだよね。ペットみたいに単純じゃない。でも多様性は大切よ。

単身世帯が高齢者も含めて増えてきているでしょう。震災なんかそれを加速させたし。高度成長もね。例えば、単身赴任なんか最初は家族が別れるのを嫌がっていたのかもしれないけど、やってみたら、こりゃ気楽でいいわってことになった。母子で「お父さんはいない方が楽でいいね」って（笑）

椎名　「亭主元気で留守がいい」（笑）

見田　昔の人は辛抱強かったんだよ、ほんとうに。でもそれがいいことかわかんないよね。人生は想定外なことばかりで、それを楽しまないでどうするって思うけど。

椎名　今はもうお墓が五割ない、とか、寺の統廃合が進んでいるとかいってるけど、「御先祖」ってなんだろう？

見田　モンゴルのジンギスカンの墓は無くて、彼の遺骨を馬がダーッと蹴散らして、どこだかわからないようにしたんでしょ。いいよね、そういうの。

おじいちゃんおばあちゃんが元気かどうか監視してくれる、「見守り機能付き電気ポット」とか売っているでしょ。そういう風にみんな商売になってしまうから。

見田　ちょっと、いっておきたいのはね、東北の復興とかもそうだけど、「元に戻す」ってことが前提でしょ。それってすごく重荷なの。それじゃ借金だけが残って再出発できない。復旧は元に戻すことなんだけど、復興ってことにおいては、今までの失敗から学んだことを元に新たにやり直した方がいいことも絶対あるじゃない？でも、それは制度的に「だめだ」っていわれるのよ。許されない。それですっごいウチ（白州郷牧場）は大変なのよ。

2014年の関東甲信大雪害のときにハウスや鶏舎がみんな倒壊してしまって、それを直しました。補助金をもらったけど、借金もついてくる。そうすると、まるで、ただ借金を返すために働かなきゃならないことになるし、人を働かせなきゃならないような状況になる。そういうことを若い人たちにおっかぶせるのか、ってこと。夢も希望もないよ。やってみてはじめてわかった知見の積み重ねってのは当然あるわけでしょ。わかったことを土台に次に進めようとしていくものなのに、まったく前と同じに戻せってどういうことなんだろう？2014年の大雪害のときは、それを選択するしかないような状況だったけど。

椎名　この前から日露戦争の映画を三回続けて観たんだけど、やっぱり原子爆弾をアメリカに最初に落とすのは日本だろうな、と思ったよ。

見田　えーっ！（笑）どういうこと？（笑）

椎名　いや、日本人ってほんと何をやるかわからない国民だなって（笑）。太平洋戦争のときの戦艦大和のことといい、そうでしょ。誰もあの戦局で戦艦大和を出艦させるべきだなんて思っていないのに、なぜか出艦させちゃう。こんなこと愚行極まりない、理性的に判断してありえないって日本海軍の圧倒的多数が思ってるのに誰も反対しない。

見田　いや自覚してるのよ、日本人はそういう危うさを。自分たちは何をしだすかわからないって。何をやるかわからないのは日本も北朝鮮とそんなに変わらないよ。こっちの方が怖そうだね。

ああ、今日も言いたい放題でした！すみません。

椎名　今回はちょっとテーマが大き過ぎたかな。最後に「**この対談の結論は『テーマが大き過ぎる』ということになりました！**」って書いといて（笑）。

---

❾子ども食堂―経済的に厳しい家庭の子どもなどに食事を提供する取り組み。全国で急増し、2000か所を超えた。年間のべ100万人が利用。

❿竹中平蔵（たけなかへいぞう）―経済学者。小泉政権下での総務大臣。新自由主義者と呼ばれるが本人は否定。

⓫養老孟司（ようろうたけし）―解剖学者。東京大学名誉教授。『バカの壁』など著書多数。

「白州の春の農場だより」

内藤 光
白州郷牧場

農場は、白州郷牧場の農産物の生産現場です。野菜、養鶏卵などの生産を通年行っています。

気がつけばもう四月です。ナスやトマトといった夏野菜の育苗がはじまり、畑には葉物野菜の種が着々とまかれています。年間での栽培計画がある程度まとまったので、あとはそれに準じて走りまわる日々です。これから収穫・出荷作業で身動きがとれなくなります。やってみたい試みや企てはまだまだあるのですが、それにはいったん蓋(ふた)をしないことには、ここまで準備してきたことまで無意味になります。

もちろん計画どおりにことが進まないのは覚悟のうえです。すでに予想外に暖かい春に直面して、次は何がくるのだろうかと恐々としています。しかし、達観して「何事も計画どおりにはいかないよね」なんて言うつもりはありません。それは計算を繰り返し、熟考につぐ熟考を重ねた人だけが言える言葉だと思っています。私はまだそこまで達していません。計算の仕方が間違っているかもしれないし、想定すべきことを見落としているかもしれない。ただそれでも、なんらかの計画は立てられなければいけないのです。

ここ最近、そういう話をあちらこちらでしているのですが、なかなか理解を得られないようです。その場の空気に流されて、計算しなければ出せない結論に先走って飛びつく。必要なものごとの準備もしないまま、いざことを進めようとして右往左往する。そういった場面をよく目にします。

失敗することが悪いということではないのです。というか、計画があってもなくても、失敗するときは失敗します。ただ、失敗をしたとしても、そもそもの計画があって、それに沿った動きをしたうえでのことならば、失敗の本質を精査することができます。全体のどの部分がうまくいかなかったのか?何が原因となったのか?何を見落としていた?それの改善は可能か?どうやって?というふうに。成功するための計画づくりじゃないのです。事業を継続させるために、失敗しても立ち上がるために、計画は必要なのだと私は考えています。

「白州郷牧場の加工所より」

見田由布子
「寝物語の里」加工所

加工所は、白州郷牧場の農産物などを利用して、漬物・麹・味噌などの製造をしています。

樹齢約千年の武川神代桜は、今年も満開でした。

加工所のことを書くようにといわれました。加工所が「白州だより」に登場するのは、初めてか、あるいは十年ぶりくらいだと思います。

「なぜ白州郷牧場で加工所を建て、麹(こうじ)をつくり始めたのか」という話は長くなります。だからしません。個人的な口調と文脈で話します。

麹をつくり始めて十五年になります。そんなに時が経ったのかと、最近気付きました。それならプロの「入り口」じゃないか!と、すこし慌(あわ)てます。

手前味噌も大いにありますが、結構評判のいい麹をつくります。白州の水と米のおかげ、また私たちの腕力のたまものと思います。

とはいえ、なぜか常より色の濃い味噌ができます。研修生の某に「麹百回!」とかいって強引に仕込んだ年の味噌です。五年ものですが「失敗は成功の元。樽ごとに違うし〜、研修生は白州のつきものだし〜」とかいって笑い合っています。

十五年という年月でわたしは老いました。自然と関わり生産をし、独立自尊の精神を養い、生きるための加工物と麹づくりは、継続しています。が、確信は揺らいでいます。世の変わりについていけません。

第一次産業、それはどうしたって、地ベタに密着し、這(は)いずり回る現場です。自然相手の仕事は、昨今の情報処理・技術革新の変化になじまないものなのです。

しかもフラットどころか地球は丸いが故に地殻変動の時期に入っていて、わたしたちもその一部でしかないということを、3・11以来、身に沁みてしまいました。

つまり、若い人たちに「こう生きよう」という提案をしにくくなっています。

体力も無くなりました。かつては十五キロの蒸米(むしごめ)を一人で持ち上げていましたが、それはもうできません。労(いたわ)りあって、米であれ、漬け物石であれ「二人で持とうね」と誘います。誘われるのは同い年の山田さん。若い福井さんはひとりでさっとやります。華奢(きゃしゃ)な福井さんを「身体を壊しなさんな」と心配の目で年寄りは見ているしかないのです。

「男が欲しいネ」は加工所の決まり文句でしたが、最近気が変わりました。年寄りも数多くいれば、労働のローテーションなり、シェアなりでやっていけるのではないかと思い、食堂「おっぽに亭こっこ」の女性達に誘いをかけました。「一週間に一回でいいんだよ」と。

女の人はおおむね、ものを作ることが好きです。おいしいものに目が無いのです。口数は多いですがそれには慣れます。強烈な個性と拘泥(こだわり)も老女になると出てくる習いですが、それはお互い様だと諦(あきら)めます。そうすれば良い仕事場ができる、はずです。たぶん。

今年は山田さんの年来の望みであった醤油を仕込みました。この顛末(てんまつ)はいつかお話しできると思います。

何はともあれ、人々は生きなきゃなりません。「死ぬまで現役!」の女の仕事場づくりを始めます。

男を排除しているつもりはないのです。

「2018年 キララ冬の学校」

平河 夏
「キララの学校」事務局長

「キララの学校」は白州を舞台に子どもたちの農・暮らし体験をする自然学校です。

とても寒い冬でした。朝晩は氷点下10度近くまで冷え込んだのではないでしょうか。

今年最初のキララの学校。キララスタッフとして復帰して3度目の冬ですが、これほど寒さを感じた年はありませんでした。

そんな寒さのなか、30名もの子どもたちが白州にやってきました。「さむーい!」と言いながらも元気いっぱいな子どもたち。キリッとした空気や風、陽の光、澄んだ空…。白州の、冬らしい冬を満喫できたのではないでしょうか。

そんな白州の冬は終わり、今この原稿を書いているのは4月8日。3月末、あの寒さなんてまるでなかったかのように初夏のような気候を迎え、そんなな か私たちは先週春の学校を終えました。例年に比べて早咲きだった桜はもう散り始め、青葉が顔を見せ始めています。

冬の学校の写真を見返しながら、あの時の寒さを思い出しているわけですが、まだ若干寒さの残る3月中旬頃、小さな小さなよもぎが土の合間から顔を出しているのを見つけて、子どもの言った「東京に比べて白州は季節の移り変わりがわかりやすいのがいいよね」という言葉が不意に思い出され、あの厳しい寒さも、こうして徐々に変わる空気や温度、山や木々の色を子どもは子どもなりに感じ受け止めているのだということが感慨深くもあります。

今年の冬の学校。駒ケ岳神社を詣で、お餅をつき、薪を割り、炭を焼き、捌(さば)いた鶏はお雑煮にし、味噌を仕込み、恐竜の背中のトゲトゲみたいなバームクーヘンを作り、畑で鬼ごっこをし、ロープワークは常に楽しく、薪ストーブを囲んできゃあきゃあ楽しみ、夜はみんなで映画を観て、森を散歩し、見たこともないでっかい氷柱に感動して、ご飯をもりもり食べて、ケンカして仲直りして…。

全てのプログラムがそうというわけではありませんが、キララでは自由参加型を採用しています。薪割りをしている子たちの横で鶏さばきに真剣な子たちがいて、ちょっと離れた森でロープワークしている子たちがいる、というように。各所におとなを配置し、子どもたちは自分がいたい場所としたいことを選ぶ。なるべくそういう時間を多く持てるようにしています。「自分で選んだ」なんて自覚はないかもしれないけれど、3泊4日という短い時間のなかで、子どもたちはそれぞれに「何か」を蓄え、持ち帰っていることでしょう。

冬に参加した子が春にまた白州にやってきて、季節の変化もまた感じたことと思います。そういった連続性の積み重ねを経て年を重ね、ここで過ごしたことで得た「何か」をいつか感じてくれれば嬉しいかな。20〜30年前にキララの子どもだったOBと、その友人たちがキララに共感し積極的に支えてくれている今のキララに身を置いて、そんなことの重要性を再認識しました。

新しい年、今年も「自由」と「自主性」を大切に、白州を楽しみ尽くす!キララの学校をどうぞよろしくお願い致します。

5月の「白州直送野菜セット」の予定

「白州直送野菜セット」は、白州郷牧場の平飼い卵、野菜、加工品などを詰め合わせたセットです。箱にお詰めして宅配便（クール便）でお送りしています。

白州郷牧場は 2007 年から JAS 有機認証を取得しているオーガニック農場です。

皆さん、こんにちは。白州郷牧場の平飼い卵、野菜を詰め合わせたセット野菜を宅配便でお送りしています。

5月は、葉物野菜が豊富に収穫できる季節を迎え、例年、緑がいっぱいのセット野菜になる予定です。予定品目をご案内いたします。

- **平飼い卵**（若鶏の初産み卵が入るかもしれません）
- **レタス、サニーレタス、サンチュ、ほうれん草、小松菜、水菜、壬生菜（みぶな）、二十日大根**、など。

白州で季節的に栽培が難しい品目は、BMW技術や無農薬栽培などでつながりのある他県の農家さんから応援していただき、お届けしています。5月は下記の予定をしています。

- しょうが…高知県の夢産地とさやま開発公社さん
- サツマイモ…茨城県の茨城BMさん
- ミニトマト…千葉県の和郷園さん
- 玉ねぎ・じゃがいも…長崎県の産直南島原さん、など。

葉物野菜がたくさんになりそうですが、それぞれ、違った味わいがあり、サラダ、おひたし、炒め物、スープ、煮びたし、など、いろいろ楽しめます。

生育が旺盛（おうせい）で旬を迎える時期です。どうぞたくさん召し上がってください！

「白州森と水の里センター」
高草木 里香

ご注文は、**白州郷牧場オンラインショップ**か、**お電話 0551-35-4445**（火曜定休）で承ります。

「白州森と水の里センター」は、白州郷牧場の農産物や加工品をお届けする白州郷牧場グループの販売部門です。

白州直送野菜フルセット

平飼い玉子10個 ＋ 旬のお野菜と加工品(8〜10品)

本体価格：3,500円（税抜・送料・クール料込）

絶賛お届け中！

白州直送野菜ミニセット

平飼い玉子6個 ＋ 旬のお野菜と加工品(4〜5品)

本体価格：2,400円（税抜・送料・クール料込）

ご贈答にもどうぞ！

食堂「おっぽに亭こっこ」より

白州郷牧場運営の、農産物直売所・食堂「おっぽに亭こっこ」では、卵かけご飯やカレーなどの食事をお出ししています。

2月末、3月末に、おっぽに亭こっこ横手店にて「麹まつり」が開催され、いろいろな漬物、甘酒や麹製品、味噌などの試食・販売をしました！

おかげさまで、盛況でした！ご来店、誠にありがとうございました！

新商品！

ばぁちゃんシリーズ

「うめぇ〜 たまご焼き」

平飼い卵でつくりました！

まるごと鶏手羽煮

（3本） 380円

平飼いでのびのび育った白州郷牧場の鶏手羽をやわらかく煮込みました。添加物は一切不使用。本醸造丸大豆醤油、自家製塩麹など、調味料も厳選しました。

ご飯が進みます！おつまみにも！

白州だより 新創刊 4 号

2018 年 4 月 20 日発行

発行：白州郷牧場

山梨県北杜市白州町横手 2259-1

TEL：0551-35-4520　FAX：0551-35-0132

メール :info@hakusyu.jp

ホームページ：

hakusyu.jp

facebook.com/hakusyugou.bokujo

白州で子どもを撮る 4

平河 夏（PHOTOLIEN ∞）

2018 年冬の学校での一コマ。赤ちゃんが作られた玩具よりペットボトルや母親が毎日使う鍋やボウルをおもちゃにするように、キララの子どもたちも「おとなが使うもの」をあっという間に自分のものにしてしまう。

（写真の無断転載を禁じます）

白州郷牧場・キララの学校運営事務局

山梨県北杜市白州町横手 2259-1

メール **kilala@hakusyu.jp**

緊急連絡先 **090-3209-5459**（平河 夏）

facebook.com/hakusyu.kilala

instagram.com/hakusyu.kilala